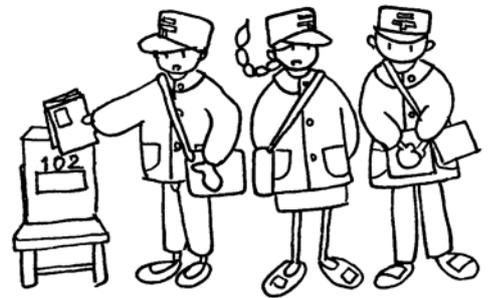


だ み よ く り に

No.758 令和7年2月1日発行

「主役はあなた、そしてわたしも。」



幸せなことに、「子どもってすごい」「保育楽しい」と思わせてもらって新年のスタートをきりました。一人で溜めておいてはもったいないので、ここで皆さんと共有しようと思います。ぜひ想像してみてください。

園庭で1歳児クラスの子どもたちが遊んでいました。手押し車にブロックを乗せて運ぶAくん。きっと、魅力的だったのか、追いかけてっこをしている気になっていたのか、Aくんのことを楽しそうに追いかけるBくん。Aくんは大事なブロックが取られてしまうと思ったのでしょう、立ち止まり、片手を前に出してBくん「だめー」と言いました。Bくんはにこにこ、そっと離れていきました。伝わったのです。Aくんの渾身の「だめー」でした。話し始めのたどたどしさがあひながら、言葉とその意味を一致させて出た一言。とてもグッときました。近くで見守っていた先生の小さな「うん、よく言えた」も保育者としての愛情を感じ、同じ想いで見守っていたのだと感じました。

次はCくん。遊具の中に入っている友だちを見て、自分も入りたくなったのでしょう。「あ(は)いる」と指をさしながら何度も言います。そして立ったまま、ほんの少しお尻を下げてまず頭から入ろうとしますが、うまく入れません。もう一度試しますが、入れません。じっと見つめます。今度はしゃがみ、下からハイハイするように中に入っていました。成功です。大喜びで笑顔をこちらに向けてくれました。「できた！」が伝わってきました。このたった1分程の姿の中で、できないことができるようになった過程、子どもの力が見られました。

これらはまさに、子どもの育ちの瞬間です。気をつけ

ないといけないのは、わたしたち大人の言動によって子どもが育つその瞬間を与えることも、奪うこともできるということです。特に後者のほうが簡単で、何でも大きな声をかけ、手をかけ……とついよかれとやってしまいそうですが、それでは奪ってしまいます。前者でありたいと、子どもに対する自分の言動を常に考えています。ちょうど最近読んだ本の言葉を借りると、「子どもの将来に責任を持つ愛情」を持って関わる、そういう感覚です。

さて1月、園内にこま名人やけん玉名人が現れることがあります。今年もいました。友だちに褒められ、囲まれ、とても誇らしげな良い表情で披露してくれます。その様子はまさに「主役」です。もちろん人生において一人ひとりが主役ですが、ある場面や出来事の中で「自分が主役」「認められた」という実感を得られることは良いことですね。そこから、自己肯定感が育まれ、それによって他者にも優しくすることができるといった社会性へも繋がります。人の基盤です。子どもたち一人ひとりの良いところ、頑張っているところ、好きなことに目を向けて、「自分が主役」「みんなに愛されてる」と思えるような経験を積み重ねて大きくなってほしいと思います。「自分は主役」だと思えること。わたしたち大人もそうでありたいものです。

今月号は、年中のお子さまから突然かけられた言葉をお裾分けして、締め括ります。わたしにとってプレゼントでした。生まれて5年程の子からかけられたという尊さを感じ、意味を想像し、感謝し、清々しい気持ちで2月を迎えようと思います。

「いつもありがとう」